

段ヶ峰. ♀, 7. VII. 1953.

山地性の種で、氷ノ山でも採集している。

2. *Myelois cribrella* (Hubner)

ゴママダラメイガ

段ヶ峰. ♂, 6. VII. 1953.

日本からシベリア、ヨーロッパに分布する種であるから山地性と思われる。県内では氷上郡妙高山及び有馬の記録が見られる。

<マドガ科 THYRIDIDAE>

* 1. *Pyrinioides aureus* Butler

ハスオビマドガ 段ヶ峰. ♀, 6. VII. 1953; 鉢伏高原. ♀, 23. VII. 1975.

関東以西では山地性の種で、北摂地域(箕面、豊中)の記録があるがまれである。

<マダラガ科 ZYGAENIDAE>

1. *Rhagades pruni* (Denis & Schiffermüller)

ルリハダホソクロバ

段ヶ峰. ♂, 6. VII. 1953.

昼飛性、日本からヨーロッパにかけて知られる広分布種である。近畿では1932~37年に採集された能勢妙見山、豊中市、及び池田市の記録があるが、今回のものも含めて

古い記録のみである。

<スカシバガ科 SESIIDAE>

* 1. *Nocona feralis* (Leech)

キクビスカシバ(ダイセンアトスカシバ)

扇ノ山. ♀, 18. VII. 1953.

鳥取(大山)、福岡、岐阜、長野など各県と北海道の記録があるが、一般にまれである。

<ハマキガ科 TORTRICIDAE>

* 1. *Cryptophlebia yasudai* Kawabe

オオアシプトヒメハマキ

氷ノ山. ♂, 11. VII. 1956.

東北から中部山地に分布が知られる大形のヒメハマキである。これまでの記録に脱落していた。

<マガリガ科 INCURVARIIDAE>

* 1. *Nemophora rubrofascia* (Christoph)

ベニオビヒゲナガ 氷ノ山. ♀, 22. VII. 1954.

全国的に分布する種で、当地方では山地性と思われ、これまで未記録であった。

(YAMAMOTO YOSHIMARU 大阪府池田市渋谷2-2-20)

明石公園のキョウトアオハナムグリ

山口 福男

1997年6月下旬から7月中旬にかけて明石公園のキョウトアオハナムグリの発生状況を観察したので報告する。

キョウトアオハナムグリが明石公園に発生することに私が気づいたのは1972年の夏であった。しかし発生のピークからかなり遅れていたため採集できたのは数匹に過ぎなかった。そこで翌年の1973年6月中旬に再調査したところ、流蜜してい

る数本のアベマキに多数の個体が吸蜜していたが、圧巻は直径が1メートルほどの大木の根元に群がる大群でその数は500匹は超えていた。アベマキ以外ではアキニレにも集まっていたが、個体数は多い木でも十数匹に過ぎなかった。この時に公園内にどれくらいのキョウトアオハナムグリが生息しているかについて調査しはじめたが、虫取りの子供たちに先に取られてしまって目的は果たすこ

とができなかった。

その後は気になりながら観察する機会がないままに経過したが、急に思い立って24年ぶりの調査となった。

6月21日明石公園東門からクヌギ・アベマキ・コナラ・アキニレ等で流蜜の有無を調べながら、以前に見たアベマキの大木を探したが残念なことに見当たらなかった。公園には直径50センチメートルを超えるアベマキの大木が20数本健在なので諦めずに調査を続けたところ、桜堀の近くの大木に千匹を超えるキョウトアオハナムグリの大群を見ることができた。このアベマキは公園内で最大級で地際で2本に別れ樹周はそれぞれ2.8、2.6メートルあり樹齢は約200年と推定できた。どれだけの頭数なのか数えてみたが飛び立つの、飛び込んで来るの、スズメバチに追い立てられるの、仲間どうして喧嘩して落ちるの等で正確な数をつかむことはあきらめざるを得なかった。何回か数えなおして1200±200位が当たらずとも遠からずと自分を納得させてこの日の調査を終了した。この大群のなかに3匹のカナブンと1匹のシラホシハナムグリ、数匹のオオスズメバチとコガタスズメバチが吸蜜していた。

6月25日にカウンターを持って再調査を試みたが個体数は激減しており244♂251♀合計495匹で、ほかにカナブン27、シラホシハナムグリ17、シロテンハナムグリ1が混在し、オオスズメバチ・コガタスズメバチの働き蜂が頻繁に訪問し、ヒカゲチョウが1匹吸蜜にきた。7月15日に3回目の調査を試みたが、キョウトアオハナムグリは1匹の雌を見ただけで、カナブンは23、シラホシハナムグリが17のほかオオスズメバチを見るだけであった。

以上が今年の調査状況で、個体数は24年前と比較し大差ないと推定したが、私の独断であって正確な根拠があるわけではない。しかし流蜜するアベマキの大木に1000匹を超える個体が観察できたことで明石公園内にキョウトアオハナムグリが温存されていると考えてもいいだろう。今回の最初の調査で個体数が最大で、わずか5日あとでは個

体数が2分の1以下であったことから見て発生のピークは6月20日以前であったかもしれない。前回には発生時期を知ろうとして6月上旬から公園内を見回したが、本種は樹液にしか集まらないのでアベマキなどが流蜜するまで出会うことはなかった。また中旬になって路上に落下している個体が少なからずあり、死んでいるかと拾いあげるとすべて生きていた。あとで分かったことであるが気温が20度より下がると飛べなくなり、夜に木から落ちてそのまま動けないでいるらしい。日が高くなると路上には1匹も見られなくなる。このようなことから発生の時期は最低気温が20度を越える頃と考えるようになった。発生の初期がいつ頃なのかまだ確認できていないが大胆に推定して6月上旬と見ている。ピークは中旬、終息は7月中旬であろう。ついで発生源であるが、このことについては何も分かっていない。コアオハナムグリやシロテンハナムグリなどの幼虫が森の腐葉土の中で育つことから本種も同じような経過であろうと推察するだけである。もしもそうであるならば話がうまく展開する。公園内には林と言うより森と表現するほうがよい環境が多く残されている。この森の何処かの落ち葉の下で幼虫が育っているに違いない。公園周辺には森も林も全く存在しないので明石公園だけが発生のよりどころとなっている可能性が高い。

余談であるが、前回の調査の時に同時に飛来していたのはカナブんとシロテンハナムグリだけでシラホシハナムグリは見かけることはなかった。今回の調査ではシロテンハナムグリが少なく、これに代わってシラホシハナムグリが増加していたのが注目された。念のため9月3日にも同じ樹について観察したが流蜜を続けていてシラホシが89、シロテンが4匹吸蜜していた。キョウトアオハナムグリにもこのような盛衰が現れないと断言できないであろうが、そうあってほしくはないと念願する次第である。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神の谷3丁目6-4)